



実践桜会 生活文化科会 生活文化学科同窓会

No.2
2018.03 発行

29年度 生活文化学科 ホームカミングデーの様子

11月11日(土)常磐祭にて、生活文化学科ホームカミングデーが行われました。卒業生トークでは、生活文化学科11期生(保育士コース1期生)朝倉様、14期生(幼児保育専攻2期生)神山様をお招きし、松田純子先生の司会でお話をお伺いいたしました。卒業後保育士として勤務され、複数のお子様をお預かりする大変さや、卒業したからこそ気づいた在学中の学びなど、同じ分野だけでなく、他の分野で働く卒業生にとっても有意義な時間となりました。また、教室には在學生によるゼミナールの紹介展示や、助手の皆様の企画によるオリジナルロゼット作りも開催されていました。卒業生だけでなく、お子様連れの皆様にも生活文化学科を知っていただくきっかけになったかと存じます。また卒業生のご活躍をお伺いする場をつくることができましたとも存じます。



生活文化学科のブースでは、心理専攻・幼児保育専攻の在學生が来場者のみなさまが楽しめる企画を行っていました。来年度の常磐祭も華やかな2日間になると思います。ぜひ、遊びにいらしてください。

●科会誌のタイトルについて

実践女子学園の創立者である下田歌子先生は、本学園設立にあたり記した「帝国婦人協会主旨」(1898年)において、アメリカの詩人、ウィリアム・ロス・ウォレス(William Ross Wallace 1819-1881年)のこたばを引いて、学校設立の意義や自らの大志を広く世に問いました。「揺籃」をゆらす手、すなわち、女性こそが「天下」を動かすことができるというものです。

「まことに揺籃を揺がすの手は、以て能く天下を動かすことを得べし。」

(「帝国夫人教会設立主意書」,1898)

「(一般階級に属する女性の)揺りかごを揺らす手こそが、社会を変革する力となります。」

この御言葉にある「ゆりかご」を、生活文化科会誌のタイトルとして、使わせていただきました。私たちはこのメッセージを女性のしなやかな手には、社会を動かせる力があるのよ、と背中を押して下さっているようなメッセージとして受け取りました。私共の活動が、社会やご家庭などを通じて様々な場所でご活躍の卒業生の皆様の支えになりますように...現在、生活文化学科で学んでいる在學生たちの後押しができますように...の願いを込めてつけさせて頂きました。



●30年度同窓会のお知らせ

松田 義幸先生をご招待し、懐かしいゼミの皆様の交流会を行いたいと思っております。現在、先生と日程を調整しておりますので、決まり次第詳しくFacebook等でお知らせいたします。

日時: 30年7.8月土曜日もしくは日曜日
場所: 渋谷(予定)

※ゼミ生のみなさまには、ご登録いただいているメールアドレスにてご連絡をさせて頂く予定です。

今後、様々な先生方をご招待するゼミ同窓会などの企画を検討しております。おたのしみに。

●役員 紹介

- ・会長 北村 はるか
- ・副会長 坂本 志穂
- ・会計 足立 奈津絵
- ・広報 伊藤 智春

◎連絡先の変更・問い合わせはこちらへ

ji.seibun.og@gmail.com

※個人情報、生活文化科会にて、慎重かつ厳重に管理致します。

※同窓会や科会のご案内が届かない同窓生が多くいらっしゃいます。ぜひ、ご連絡先を科会までご連絡ください。メールやFacebookにて情報をお届け致します。



←実践生活文化科会
Facebook